

令和3年度 第2回学校協議会 会議録

- 1 日 時 令和3年12月7日(火) 18時30分～
- 2 場 所 産業高校会議室
- 3 出席者

(1) 学校協議会委員 (50音順 敬称略)

産業高等学校元PTA会長	池内 美智子
産業高等学校同窓会副会長	北野 好美
JFE継手株式会社	信貴 政則
岸和田市立中学校校長会会長	松田 篤人
産業高等学校PTA会長	藪 耕紀

(2) 学校(事務局)

校長	楠戸 啓之
全日制教頭(司会)	大西 敦子
定時制教頭	榎本 正広
全日制教務部長(首席)	齋藤 良房
全日制指導教諭	田井 伸二
事務長(記録)	田中 幸博

4 次 第

(1) 校長挨拶

今日は委員の皆様にも体験的な学校協議会をしていただくということで、iPadも用意しています。また詳しくは後程。学校協議会でも何回か商品開発クラブのご紹介をさせていただいていますが、先日の全国大会でベスト4に入りました。商品開発クラブはややもすると、商品を作って地域活性化するという印象が強いのですが、それは氷山の海の上に出ている部分だけで、本当は生徒が一番よく頑張っているのが、研究活動です。商品開発を通じて研究をして、仮説をたてて、その仮説がどうかという活動をたくさんして、最後に検証を行います。そういう研究的な活動によって、全国でベスト4に入ったというのは、とても生徒は頑張ったと思っています。その全国大会のプレゼンテーションを10分程度ですが今現在本校のホームページでご覧いただけます。

今日は本校もWi-Fi環境が整って少しずつ歩みを進めているというところがございますので、そのあたりを体験していただいて、色々のご意見を頂戴できればと思いますので、どうぞよろしく願いいたします。

(2) 会長挨拶

師走に入りまして慌ただしい季節となっています。皆様にはお忙しい中をお集ま

りいただきまして誠にありがとうございます。新型コロナウイルスですが、武漢で初めて確認されてもう2年が経ちました。岸和田の新規感染者は8月の973名がピークでした。この時は学校も色々と苦勞されたということを知っています。そのあとワクチン接種の効果もあって、11月は9名となっていますので、かなり落ち着いてきたと感じております。学校の行事も順調なようで、10月は人流抑制はあったものの、予定通り産高祭は開催されたということを知っております。また、今月も修学旅行を予定通りされると知っていますので、生徒達も喜んでいるのではないかと考えています。先生方には大変だとは思いますが今年度もあと4か月、最後まで生徒達のためによりしくお願いしたいと思います。それでは協議会を始めますので、最後までよろしくお願いいたします。

(3) 「Wi-Fi環境の整備に伴う授業改善および教員の授業力向上への取り組みについて」

◇齋藤教務部長

私の方からは、概要についてお話をさせていただきたいと思います。今年度につきましては、iPadの導入、それからWi-Fi環境の整備が行われております。それによって授業でのICT機器の活用がさらに加速をしています。具体的には3点あります。1点目は、端末を生徒が利用することによりインターネットを活用した調べ学習ができるようになっています。例えば、今までは、調べ学習というのは家でないとできないというところがありましたが、課題への取り組みなどを授業中にグループで行うことが可能になりました。2点目は、教員がWi-Fi環境を利用してタイムリーに動画などのコンテンツにアクセスし、それを生徒と共有することができることです。今までは、インターネットの動画等については、ダウンロードをして自分のコンピューターに取り込んだものしか生徒に見せることができませんでした。例えば、授業の中で生徒が、こんなものが見てみたいという時に、とっさに対応することはできませんでした。先生方の端末からいつでもインターネットにアクセスすることができるので、生徒のニーズに合わせて、それをすぐに見せることが出来ます。今はYouTubeあるいは他の動画サイトに教材として使えるような動画があふれています。そこから実際に動画を見る中で生徒は理解を深めることができます。授業内での生徒の問いかけに対して柔軟に対応し回答するということが可能となっています。3点目は、グーグルフォーム等の利用によって、アンケート形式の問いかけを授業の中で行って、それを即時回収、また即時集約することができますので、生徒の意見をリアルタイムにフィードバックすることができるようになりました。今までは一度とったアンケートは、紙ベースで持ち帰ったものを集計作業してから、次の時間に結果を生徒たちへフィードバックしていたのですが、今の問いかけに対して生徒の反応を即時に把握することができるというのが大きな利点となっています。以上のような点につきまして今までとても時間がかかっていた作業を軽減しながら、更には生徒にとって魅力がある授業内容を充実させること

ができるというのが大きなメリットとなっていると思います。今日は、そうした授業力向上の取り組みの中から実際にアンケートフォームを利用した授業について本校田井のほうから例示をさせていただきたいと思いますのでどうぞよろしくお願いいたします。

◇田井指導教諭

私は保健体育科の教員ですので、実際に保健の授業で行った内容につきまして本日はご紹介させていただきます。私がこの前実践したのは、「性への関心・欲求と性行動」という単元にあたるころでした。そこで、身の回りにおける性に関する情報から正しい性行動を選択しようということを目当てにして、授業を行いました。そのなかで、生徒達に、みんなは性に関する情報をどんなところから得ているのかと問いかけてみました。ここでアンケートを授業の中で行うのですが、そのアンケートをネット環境を用いて生徒達にやってもらいました。今日は生徒達が実際にやったことを皆さんと一緒にできたらということを進めてまいります。まず、QRコードを読み取っていただくとアンケートフォームが出てきます。学校協議会用ということで本日作ってまいりました。それを押していただくとアンケートフォームにとぶようになっています。複数選択ができるようになっておりますので、選択後、送信するというボタンを押してください。

今やっていただいたアンケートは、私の手元ですでに集約されています。回答結果が即座にわかるようになりました。今までは、生徒達からこういう情報を聞くためには、集計までとても時間がかかっていました。それが今やっていただいたように、教師からの発問に対して、リアルタイムで生徒たちの回答を手元で確認して、そして一人ひとりがどう考えたのかということクラス全員で共有できます。これがWi-Fi環境が整ったことの最大のメリットだと私は感じています。クラスで発問しますと、だいたい活発な生徒が発言するのですが、実は大人しくて中々発言できない生徒もしっかり意見や考え方があります。でも、今まではそれを中々引き出すことができませんでした。ところがこういう環境があることによって、声をあげづらい生徒にも意見の集約が出来、そしてすぐに教室で共有できるということが、メリットの一つになっています。実際の授業では、アンケートの結果から解ったことや、気づいたことを班で共有して話し合ってみようというような課題を与えます。最後に知識的なところ、情報の正確性が一番大事であるということ共有しました。その後、実際の事例を元にして、課題であると思うところを考えて班で共有し、どんな解決方法があったのかを更に深めていく授業展開を行いました。振り返りとしては、身の回りにおける性の情報から正しい性行動を選択するために大切なことは何だったのかを最後に考えさせました。このように、今回Wi-Fiの環境が整ったことによってこれまでやりたくても中々できなかった、双方向の授業展開ができるようになりました。こういったところから授業改善を進めているとい

うのが現状です。以上で私からの実践事例報告を終わらせていただきます。時間をいただきましてありがとうございました。

○質疑応答

(委員) 紙に書くより回答はしやすいだろう。

(事務局) 特に今回のテーマが性に関することだったので、回答しやすかったと思う。

(委員) この端末は、常に貸し出ししているのか。

(事務局) 授業の時に教師が持って行って、グループで使うのが現状である。

(委員) Wi-Fi の環境が整ったのは最近か。

(事務局) 今年の3月に工事が完了し、4月から運用している。iPadも3月に入ったので、実際に使いだしたのは4月からになる。4月は、コロナの感染状況がまだ気を許さない状態であったので、中々全員が揃って集会というのができなかったが、多目的教室から朝礼などの配信を各教室のスクリーンに映し、生徒は教室で座って画面を見ることができた。また進路の説明会も、密を防ぐということもあるが、体育館では机がなく、中々書き留めるということができなかったが、各教室の画面で説明を聞きながら書き留めることが出来るようになった。本校では端末を一人1台持っていないが、教室に配信することで、生徒がそれを見て学ぶ機会が増えたことは、ほんとにありがたいと思っている。

(委員) 先生方が今まで手で集計していたのが、電子集計になるし、過去のデータも持っておける。又それを後々見られる。それはメリットがあると思う。

(委員) 時代の流れとは思いますが、ほとんどの生徒は使えるのか。

(事務局) スマホの普及によって全ての生徒が使える。

(委員) 今はSNSという言葉があたりまえになっている。

(委員) 絶対に持たせないという家もあるように聞いている。

(事務局) 正しく使うということ、学校でも指導しないといけないと思っている。特にSNSに関しては、色々な事がニュースで取りざたされている。怖い部分も勿論あるので、注意して使わないといけないと思っている。

(委員) まだ生徒全員に普及しているわけではないので、今後どうしていくかは課題としてあるだろう。価格もまだまだ高い。

(委員) 将来的には、個人の携帯を使って授業をすることになるのか。

(事務局) 実際できる状態ではある。

(事務局) 東京では、生徒の携帯を使った授業スタイルが始まっているようだ。

(委員) Wi-Fi がつながったから生徒は休み時間に自由に使うのではないか。

(事務局) 生徒個人ではつなげないようにしている。

(委員) 中学校は、クロームブックを使っており、授業はすごく便利にはなっている。数学は1年間でうまく使えば3分の2で履修できる。双方向でできるので、黒板に書くことがなくなってくる。まだそこまではいっていないが、やっぱり便利である。

学校教育自己診断も生徒に輸入してもらえし、保護者にも QR コードを読み込んでもらい回答してもらるので、すごく楽にはなっている。ただ、一歩間違えば、いじめの温床になったりするので、持ち帰らせてはいない。

(委員) 高校はスマートフォンを持ってきてもいいのか。

(事務局) 持ってきてもいいが、本校の場合には使用時間を決めていて、昼休みと放課後以外は電源を切ることになっている。もし授業中に音が鳴ると、あずかり指導となる。

(委員) 中学校はだめである。事情があって朝、職員室に預けに来る生徒はいるが、基本的にはだめである。

(委員) 盗難であるとか違う問題がでてくるだろう。

(事務局) スマートフォンも貴重品であり、高価なものである。個人情報も入っているので、とにかく自分で管理しなさいとは言っている。財布よりスマートフォンの方が持ち歩いている。

(事務局) 検定試験や受験もウェブでの申し込みになっている。今までは情報処理室のコンピューターを使っていたが、生徒の携帯からのほうが早い。

(委員) 今後もっと普及するだろう。

(事務局) 校外学習や修学旅行でも、カメラを持ってくる生徒はほとんどいない。みんなスマホで撮って共有する。焼き増しとか写真貼って申し込むとか、そういう光景は一切なくなった。

(委員) 先ほどの送信画面は簡単に作れるのか。

(事務局) もととのフォームがあるので、追加等簡単にできる。

(事務局) iPad を使った双方向の授業展開をしている先生はまだそんなに多くない。今までなら黒板に全部書いていたものを、パワーポイントで順番に映し出していく授業展開をしている先生は多くなった。

(委員) だんだんとホワイトボードとか黒板もいらなくなるかもしれない。

(事務局) 本校では真ん中にスクリーンがあり両サイドが空いている状態。その両サイドの黒板に説明を書き足したりしている。またスクリーンの中にも電子ペンで書き込めるようになっていて、地理とか歴史的なものの画像を映した時に直接書き込むような授業展開をしている先生は結構いる。地図や本文を黒板に書く時間は生徒が暇なので、その時間を短縮して説明に使えるのは、授業展開としてはとてもやりやすくなった。

◇榎本定時制教頭

3年ぐらい前の学校協議会では電子黒板を使った授業を見ていただいたと思いますが、そこからWi-Fiが入って環境が急に変わり、とても便利になったと感じています。電子黒板が入ってから、すべての先生がそれを使って授業をするまでとても早かった

です。本日は Wi-Fi 環境を使ってどんな授業しているのか、いくつか事例をご紹介します。まず Wi-Fi の利用で一番多いのは、クラウドを使った授業です。クラウドとは、パソコンの中に授業のデータを入れてそれを持って行って映すのではなくて、サーバーの方にデータを置いて、どのパソコンからでもアクセスすれば、その授業のデータを呼び出して、すぐに電子黒板に映して授業ができます。それから、全日制でも紹介していましたが、YouTube です。先日家庭科の保育の授業で折り紙をすることになり、YouTube にあがっている動画を使って、しかも速度を変えて再生できるので、わからない人は動画を見ながら一緒にやりましょうという活用をしていました。それから、ネットのリテラシーの話ですが、自分が良かれと思ってあげた記事が批判にさらされて、炎上してしまうということがあります。そういう実際に炎上した写真を見て、その何がダメだったのかをみんなで考えてみようという授業がありました。マインドマイスターという、ブレインストーミング用のツールがあって、ネット上の掲示板のようなところに、一人一人が打ち込んで投稿した言葉が張り付いていきます。要は付箋に書いて黒板に貼り付けていく感じで、みんなの意見をどんどん貼り付けていって、それを整理していく、そういう使い方ができます。生徒のスマホから QR コードを読んで、ウェブ上で回答して、それを集約していきます。

授業は、こういうのを使うからいいのではなくて、使うことによってより効果的に、今まで無駄なことに使っている時間をもっと別のことに使える。今はそういう時代になってきています。本校でもここ 5 年ぐらいで急に進んだと感じています。以上定時制の授業の事例を紹介させていただきました。どうもありがとうございました。

○質疑応答

(事務局) 全日制は、1つの学年で3クラスから4クラスくらい授業を持っているので4回同じ授業ができる。1回目うまくいかなかったら2回目3回目と修正ができるが、定時制は1学年1クラスしかない。だから一発勝負となる。一発勝負なので、こうしたらよかった、変えてみようかと思っても来年まで待たないと仕方がない。定時制の先生方がスキルアップすることは、非常に難しい。そういう中で定時制の先生方が苦勞しながらやっていることを、ちょっとお知りおきいただけたらありがたい。

(委員) 自分のスマホで入力して画面にとぶという授業(定時制)は、退屈しないだろう。

(事務局) 慣れない機器で入力するのは、抵抗感があつたりする。そういう生徒も自分のスマホなら、普段やっているように自由自在に日本語入力できる。生徒は全然抵抗感なく普通に打っていたので、驚いた。ただ聞くところによると、以前はパソコンのある家庭は一定の割合にあつたのが、スマホの普及にしたがって、パソコンのない家庭が逆に増えてきているとのこと。ネットやメールがすべてスマホで完結する。きれいな写真がとれるし、動画もとれる。しかもそれをネットにアップできるという、すごい時代になっている。逆にキーボードで打つ体験が必要で

はないかと思う。

(委員) パソコンなら変換して漢字がでてくるが、いぎ書こうと思ったら忘れてる。仕方がないからまた携帯で探すことになる。子どもには、大事なことは書きなさい。書いて覚えなさいと言っている。今は書くことが少なくなってきている。勉強のやりかたが僕たちの時からがらっと変わっている。それが良いのか悪いのかわからないが。

(事務局) 授業では、生徒はプリントやノートに書いている。映る方は進化してきているけれど、まだ手で書くことは残っている。ただいずれそういうのもなくなっていくのかもしれない。

(委員) それはそれで怖いと思う。

(事務局) デジタルとアナログのバランスは絶対にいる。すべてがデジタルになったら決してよくないと思う。海外ではまだまだ家庭にノートパソコンやデスクトップがあるらしいが日本は急激に減っているらしい。モバイルになってきている。だから逆に言うと、まだまだ仕事では、デスクトップは使っているので、本校のようにコンピューター施設を持っていて、デスクトップの機能を学ぶというのはすごく大事なことと思う。世の中はモバイルという中で、デスクトップはまだまだ色々な所で使われている機器なので、それを学ぶのはすごく大事であり、本校の一つの特徴にしていける気はする。

中学校は、クロームブック、いわゆるノートパソコンみたいにキーボードがあって、生徒はキーボードを打っているのか。

(委員) キーボードを打っている。

(事務局) 使っていたら打つスピードは速くなっているか。

(委員) 「寿司打」という、キーボードを打つソフトを使っている。検定ではないが、競わせたりもする。一生懸命する生徒は早くなるが、ローマ字が中々わからない生徒もいる。

(事務局) 中学校で入力スピードが高まった生徒が、本校に入ってきたら、そこからスタートになるので、すごくありがたい。今までは遅いところからスタートして積み重ねていったが、ある程度中学校でスピードが上がってきたなら、よりいいスタートが切れる。

(委員) 技術の授業でもやっているのだから、結構打てるようになって高校に行くとは思っている。

(事務局) かなり前になるが、チャットが流行ったころは、本校に入ってきた生徒で、やたらと打つのが早い子が結構な人数いた。そこからスマホに変わってきて、キーボードを打たなくなった時代の子が入ってきて、早く打つ子がいなくなった。でも、キーボードに慣れ親しんでいる生徒が入ってきてくれたら、またスピードアップできるかなと思う。キーボードを触ったことがない状態で本校に入ってくる生徒が増えてきたので、打つスピードが遅くなっている。来年度からまた楽しみ

である。

(事務局) 打つスピードは、ワードにしてもエクセルにしても、そのベースになる処理であり、仕事をする速さに全てつながるので、そういう意味ではありがたい。

(委員) タッチタイピングまでは中々難しいが。

(事務局) それは本校に入ってからで大丈夫である。

(4) その他

(委員) 今後の学校行事はどうなっているのか。

(事務局) 来週3年生が修学旅行に行く。それから1月の末から2年生がスキー修学旅行に行く。2月の半ばには特別入試(デザイン科の入試)、3月に一般入試があり、その間で卒業式がある。

(委員) デザイン科の発表会はいつか。

(事務局) 1月14日からの金土日にもドカホールである。来年は、合唱コンクールができたらいと思っている。合唱コンクールは2年間出来なかったなので、合唱コンクールを知らない生徒達になっており、再スタートとなる。

19時15分終了

※次回は3月下旬頃に開催予定。